

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

<本年度の学力向上基本方針>

≪研究主題≫

学習に向かう意識を高める指導法の工夫・改善
～「ぼくにもできた」から「そうだ、勉強しよう」へ～

研究主題実現の方針として、「基礎学力の定着」と「家庭学習の習慣化」を目指すために、下記の教育実践を行う。

- ①チャレンジノートとチャレンジカップの実施
→ 学習実績の可視化・成績優秀者の表彰を通じた自主学習のきっかけづくり
- ②「授業マネジメント」と「基礎アップ」を意識した「授業公開」の実施
→ 参観感想のフィードバック・よい授業のアンケートを活用した授業実践
- ③「大谷口中 授業がわかる 3つの約束」の掲示・実践
→ 授業規律を生徒・教職員がいつでも意識できる工夫

<本年度の学力向上策>

- ①平成27年度より全校で実施してきた「チャレンジノート（家庭学習）とチャレンジカップ」を継続させ、「家庭学習の習慣化」を目指す。
また、生徒の学習意欲や達成感・成就感を向上させるため、家庭学習の実績を可視化し、年5回実施のチャレンジカップで成績優秀者を表彰して学習に対する内発的動機づけを行う。
- ②平成27年度から取り組んでいる「公開授業を見合う」ことを継続し、「学習に向かう意識を高める授業」ができてきているのか、という「授業マネジメント」の観点から教科や学年の枠を超えてお互いの授業を見合い、参観した感想を授業者へフィードバックする。
また、年2回実施の「よい授業アンケート」の結果を活用し、授業実践の工夫改善を行う。
- ③本校の実態として、3校の小学校から生徒が入学するため、毎年新入生の授業が開始される度にチャイム着席等の授業規律を整備して徹底させることが課題となる。大谷口地区の「小・中一貫教育」においても「時間を守る指導」が重点目標となっている。
そのため、昨年度に全教職員で話し合いを行って作成した『授業がわかる 3つの約束』を特別教室も含む全教室に継続して掲示し、生徒・教職員がいつでも授業規律を意識できる工夫を行う。

以上の取組における成果と課題を「平成30年度の学校評価の結果」と「市学習状況調査の結果」から考察する。

授業がわかる 3つの約束



準備・着席 チャイム前

<本年度の振り返り>

- ① 「チャレンジノート（家庭学習）とチャレンジカップ（3教科の基礎）」の取り組みを継続し、生徒の学習意欲や達成感を向上させるため、生徒の実績をグラフにしたり、成績優秀者を表彰したりしたが、「家庭学習の習慣化」には大きな課題がある。
新年度は、チャレンジカップを5教科での実施とし、その課題を定期テスト範囲と連動させてテスト対策の一環とする等の工夫を行い、生徒の学習意欲を高め、「家庭学習の習慣化」を改めて目指したい。
- ② 「公開授業を見合う」こと、「よい授業アンケート」の結果を活用すること等を通して、生徒の「学習に向かう意識を高める授業」を目指してきた。
その結果、学校評価アンケートの「先生はわかりやすい授業をしている」「先生は自分たちに学力をつけるよう努力してくれている」の項目では、「そう思う」「大体そう思う」と答えた生徒が94%と、昨年度より増加させることができた。
さいたま市学習状況調査の結果ではさいたま市の平均を下回るが、引き続き授業実践の工夫改善を行い、「学習に向かう意識を高める授業」を全教職員で実践していきたい。
- ③ 『授業がわかる 3つの約束』を作成して2年目を迎えた今年度は、生徒も教職員も、これまで以上に授業規律を意識して、教育実践をすることができた。
大谷口地区の「小・中一貫教育」の重点目標となっている「時間を守る指導」が今後さらに充実するよう、『授業がわかる 3つの約束』の見直しを行いながら、授業規律を含めた学習環境の整備に尽力していきたい。